

糖尿病地域連携パスについての紹介文

【糖尿病地域連携パスについて】

平素より地域連携に際しまして多大なる御高配を賜り、心より御礼申し上げます。当院では、令和6年12月から糖尿病地域連携パスの運用を開始しました。

地域連携パスをご活用いただくことで、糖尿病患者さまの健康寿命が向上し、より良い診療をご提供出来るようになりましたら幸いです。

地域連携パスにより、以下のようなメリットが得られると考えております。

- ① より良い血糖コントロール目標の達成、薬物療法の提案、調整
- ② 糖尿病合併症の適切な評価
- ③ 栄養指導や、療養指導士による療養指導を含めた知識、ノウハウの伝授・獲得
- ④ トラブル時(シックデイ、高血糖緊急症)における速やかな入院治療
- ⑤ 患者さまの治療へのモチベーション向上

地域連携パスを開始するにあたっては、お手数ですが所定の「診療情報提供書」と「患者さまへの説明資料」をご用意ください。

また、開業医さまからだけでなく、当院で診療中の糖尿病患者さまについて、開業医の先生方へ地域連携パスを用いた定期フォローをお願いさせていただく場合がございます。

地域連携パスを実際に運用していく中で、ご不明な点やご指摘がございましたら、地域医療支援センターまでお気軽にご連絡頂ければ幸いです。

【糖尿病地域連携パスの特徴】

- ・糖尿病合併症や併存症に関する多彩な検査を**定期的**(6~12ヶ月おき)に行うことができる。
例：神経障害・網膜症・腎症の評価、大血管障害の評価、各種画像検査など
- ・専門知識を持つスタッフからの療養指導を、**定期的**に受けることができる。
- ・**注射製剤**(インスリン、GLP-1 受容体作動薬を含めた)を専門医・専門スタッフ指導のもとで導入できる。

- ・専門医の診察のうえで、治療内容の定期的な見直しや提案を行うことができる。(クリニックイナーシャを避けることに繋がる)
- ・かかりつけ医へ通院しながら、半年～1年に1回総合病院で専門の治療・指導を受けられるため、患者負担が軽減され、かつ医療の専門性が担保される。

【地域連携パスで当院が行うこと】

▶初診時

- ・病態の把握(詳細な問診、心理社会的な問題を含めた聴取)
- ・インスリン分泌能評価(血中Cペプチド測定)：インスリン注射の必要性を精査します。
- ・膵島関連自己抗体測定(抗GAD抗体など)：糖尿病の病型診断を確認します。
- ・体組成測定(InBody)：筋肉量や体脂肪量などを詳しく見ることができます。

▶半年～1年おき

- ・血糖コントロールの確認、評価：必要に応じて、薬物療法の変更について提案します。
- ・合併症評価
神経障害評価 (CVRR、DPNチェックなど)
眼科受診歴確認
腎症評価(尿沈渣、尿中微量アルブミン、eGFR)
(必要に応じて薬物療法の確認・調整、腎臓内科へのコンサルトも行います。)
- ・歯科受診歴確認
- ・大血管障害評価 (頸動脈超音波、脈波(ABI・PWV))
- ・心不全の評価 (BNP測定など)
- ・CTなどの画像検査(初回受診時)

※上記の検査は代表例であり、患者さま個々人の状態に合わせて、全ての検査を行わない場合や、別の検査や治療を行う場合があります。

▶ご紹介・受診について

糖尿病地域連携パス専用の診療情報提供書兼受診申込書（紹介状）をご使用ください（申し込みの際、受診申込書は不要です）。また、患者さまへの説明には説明資料をご活用下さい。

【糖尿病地域連携パス】診療情報提供書兼受診申込書

（パス開始・パス定期受診、どちらかに○をつけてください）

患者さまへの説明資料

1. 糖尿病地域連携パス（説明書）・・・当院で使用している説明内容です。ご参照ください。
2. 糖尿病地域連携パスについて（開始時：説明用紙①）
3. 糖尿病地域連携パス受診について（かかりつけ医と当院が連携して治療を行ないます：説明用紙②）
4. 中東遠総合医療センター受診時のご案内資料・・・かかりつけ医からパス開始時のご予約の際にご使用ください。

糖尿病地域連携パスを開始するにあたり、各開業医さまから説明していただき開始する場合と、当院で説明して始める場合があります。

それぞれのフローなどは下記の PDF ファイルをご覧ください。

【診療計画書】 かかりつけ医から開始

【連携パス運用】 かかりつけ医から開始

【診療計画書】 中東遠総合医療センターから開始

【連携パス運用】 中東遠総合医療センターから開始